

近世人物誌

其少將の妾
少將の妾某以前日本橋に居りて
名勝を稱せり其の尋常の遊戯
あきかた以て少將愛して妓籍を脱せ
して任地熊本の官邸に伴はたり然る
明治九年十月廿四日神風連の暴擧の爲少
將は重傷を負ひ遂に逝去あり此時妾は
東京の母許に在りて當時の諸新聞に
電報を交りたり當時の諸新聞に
其優美の姿同所小止りて或時同郷
查と奉職の如何某は此幸を懸想し思ひ
絶れぬ一日面會の機縁情のあはれ
を吐露せふ之を戒む妻は故敵の恩偶
業を朝の事ならず感泣せられて土
を離るる小御身と怪
妻は眞石の藝妓の果ありて
申入りの無念あり御身と輕き
おも等し官吏ならざるや此場は是れ
として人にも言ひて身も此後を慎み
玉ももとのわが業の慙愧絶
穴窟断念とてとありけし
あや御身の斯く思入王
さしを婚けしと肌
締絆を脱し予つくり其年
役を討死せし肌をい妻のあま
なもたが締絆を看し居たり



發行所 東京 京橋區 也まど新聞社
尾張町貳丁目皇座
電話 兼 東隅 依二
中長 文 本

第八
尾張

